

## 産婦人科におかかりの患者様へ

当院は岡山県の周産期医療の拠点病院の一つとして、県民の皆様の母子保健の向上のために診療を行っています。

妊娠糖尿病は、以前から糖尿病と診断されていたわけではなく今回の妊娠で初めて診断されたものを言い、出生直後の赤ちゃんに低血糖などのトラブルの頻度が高くなるので注意が必要です。お母さん側から見た場合、今回の妊娠で妊娠糖尿病と診断された方はそうでない方に比べ、将来 2 型糖尿病になりやすいことが知られており早期発見が重要視されていますが、現行の妊娠糖尿病のスクリーニング方法では診断されないことがあります。私たちは、妊娠糖尿病の妊婦さんでは羊水量が増加することに注目し、超音波検査で診断する羊水量異常を妊娠糖尿病のスクリーニング項目に加え、より良いスクリーニング方法の確立に取り組んでいます。

この度、「妊娠中期以降における妊娠糖尿病のスクリーニング検査としての羊水量測定の意義」という題名で、この問題点に関して研究することになりましたので、皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

### ○対象

2011 年 1 月から 2018 年 8 月までの間に、妊娠糖尿病と診断されたか、あるいは超音波検査で羊水量異常（増加）を指摘され、当院で出産した褥婦さん。

### ○調査方法

この調査研究では診療記録から以下の情報を中心に集めて行います。

- ① 褥婦さんの基本情報（年齢、身長、体重、妊娠回数、既往歴など）。
- ② 妊娠糖尿病のスクリーニング検査結果（妊娠初期と中期の随時血糖値）。
- ③ 糖負荷による妊娠糖尿病の確定血液検査の結果。
- ④ 超音波検査で行った妊娠中の羊水量の測定値の経過。
- ⑤ 分娩時の基本情報（分娩週数、分娩方法、分娩時合併症、産後出血量など）。
- ⑥ お子様の基本情報（性別、出生時体重、予後など）。

### ○秘密の保持

必要な情報のみを統計資料として集計しますので、院外に皆様方のお名前や個人情報が出ることはありません。

### ○この調査にご自分あるいはお子様の診療記録を使って欲しくない方はお申し出ください。

この研究は、当院臨床研究審査委員会にて承認され、実施医療機関の長より研究実施の

許可を受けて行っている研究です。研究実施期間は、許可日から2019年8月まで行っております。この調査にご自分あるいはお子様の診療記録を使って欲しくない方はお申し出ください。この調査のために上記の診療記録を使用することをお断りになっても、不利益を受けることは全くありません。その他ご不明な点等ございましたら、下記までお申し出ください。

**【研究責任者】**

独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター

〒701-1192 岡山市北区田益 1711-1

Tel: 086-294-9911

産婦人科診療部 多田克彦